

北米3都市で愛知県の観光PRを実施

平成24年3月10日
サンフランシスコ産業情報センター
駐在員 佐藤 賢児

本年1月から2月にかけて、米国西海岸の主要都市を中心に、日本政府観光局（JNTO）ロサンゼルス事務所の主催による観光PRを目的としたプレゼンテーション・イベントを始め、いくつかの観光イベントが開催されました。

サンフランシスコ産業情報センターは、その内の3都市で開催された観光イベントに参加し、本県の観光PR活動を実施しましたので報告します。

【観光PRのプレゼンテーション・イベント】

今回、サンフランシスコ産業情報センターは、2月14日にオレゴン州ポートランド市、同23日にアリゾナ州フェニックス市で開催された「Japan Showcase（ジャパン・ショーケース）」に参加し、本県の観光PR活動を実施しました。

このジャパン・ショーケースは、日本政府観光局（JNTO）ロサンゼルス事務所が、主に、米国西海岸の各主要都市で開催しており、当センターも毎年参加している観光PRイベントです。

このイベントは、いわゆるブース出展方式ではなく、日系の旅行代理店やホテル、エアラインなどの旅行業界の関係者や、我々日本の地方公共団体の北米事務所など約10団体がプレゼンターとして参加し、ゲストとなる米国の旅行代理店担当者に対し、個別に観光PRのプレゼンテーションを行う方法で実施されました。

1つの円卓に、4～5名の米国の旅行代理店担当者が着席し、各プレゼンターが、1テーブルごとに10分間の観光PRのプレゼンテーションを行い、会場内に設置された全ての円卓を回った結果、両会場合わせて約90名の米国旅行代理店担当者に対し、19回プレゼンテーションを実施しました。

各テーブルでは、少人数のゲストの面前で



ポートランド会場の様子



フェニックス会場の様子

プレゼンテーションを行えたため、米国旅行代理店担当者の関心事を即座に把握でき、また、県内の観光地に関する多くの質疑応答も交わすことができました。

【世界各国からも多数出展したバイエリア・トラベル&アドベンチャー・ショー】

ジャパン・ショーケースでは、米国の旅行代理店担当者を対象に観光 PR を実施しましたが、2月19日には、カリフォルニア州サンタクララ市のコンベンション・センターで、一般来場者への観光 PR を目的として開催された「2012 Bay Area Travel & Adventure Show (バイエリア・トラベル&アドベンチャー・ショー：以下、「トラベル・ショー」)」に参加しました。

このトラベル・ショーは、昨年10月からアトランタ、ダラス、ロサンゼルス、シカゴ、サンタクララ、ワシントン DC の全米の6都市で順次開催され、今年で7回目となります。

主催者の発表によると、今回サンタクララ市で開催されたトラベル・ショーは、入場者数が12,850人で、ブース出展者は、米国内からはカリフォルニア州内の各市を始め、アラスカ州、フロリダ州、ネバダ州、ユタ州などの各州や、米国外からは、カナダ、中国、イスラエル、ネパール、インド、フィリピン、シンガポール、マレーシア、トルコ、ギリシア、アフリカなどの各国の関係者も出展し、国際色豊かな観光イベントとなりました。



日本政府観光局 (JNTO) ブース



多くの聴衆で賑わったトークショー

イベント会場は、旅行代理店、ホテル、エアラインや世界各国・全米各州の観光業界関係者によるブース出展だけでなく、ZIP LINE (シップライン：傾斜をつけて張ったワイヤーケーブルを、滑車にぶら下がり滑走する遊具) やフリー・クライミング、セグウェイの試乗などのアトラクション体験コーナーの設置や、アジア・中近東各国の民族舞踊・音楽イベント、世界各地の観光名所を紹介するトークショーの開催などにより、幅広い年齢層の来場者で終日賑わいました。

当センターは、日系の旅行代理店やエアラインと共同で日本政府観光局（JNTO）のブースに出展し、ブース来訪者への本県の観光地紹介や各種観光 PR パンフレットの配布等により観光 PR 活動を行いました。

また、一度も日本を訪れたことがないブース来訪者からは、「いつか日本に行って、アメリカナイズされていない本当の日本食を一度味わってみたい。」「日本の美しい自然や古い街並みを見てみたい。」など好意的なコメントばかりありましたが、実際に訪れてみたい観光地を尋ねると、東京や京都、富士山などの地名はすぐに挙がりましたが、残念ながら、約 7 割近くの来訪者が「“AICHI” という地名を知らない。」と答え、継続的な本県の PR の必要性を痛感しました。

当センターとしましても、今後も本県の観光地としての更なる知名度向上や観光客の誘客促進のため、今回のようなジャパン・ショーケースや観光イベントに参加し、引き続き観光 PR 活動に積極的に取り組んでいきたいと思っております。